

一般質問

質問者
あましを掲載して
います。



地域の居場所支援 公共交通を軸とした都市の持続的発展 三井暢秀 (市民クラブ)

質問 子ども食堂の現状と、本市で事業化する考えは。

答弁 本市が把握している子ども食堂は22団体あり、ボランティアの協力を得るなどして運営されている。子ども食堂を事業化するには、地域の実情を踏まえつつ安全性や公平性を確保した仕組みづくりが必要となる。また現在運営されている子ども食堂に対し、運営時の衛生管理や栄養管理など、制度としての枠組みを強いることになるため、事業化は難しいと考えている。

質問 上越新幹線の終電時間繰り上げによる本市への影響は。またJR東日本との協議の場はあるのか。

答弁 本市には、新幹線を利用して首都圏に通勤する市民も多いため、通勤利用者への影響を懸念している。ダイヤ改正などの運行計画はJR東日本が決定する事項で、これまで事前に協議したことはないが、市民生活への影響が大きい案件については、協議の場を設けてほしい旨を要望した。



医療的ケア児等の就学・就労に対する支援 生涯にわたる健康支援 小野聡子 (公明党)

質問 小・中学校で医療的ケアを行う介助手が急用等で不在となった際の対応は。

答弁 学校に配置した介助手が急用等で不在となった場合、子どもが利用する放課後等デイサービスなどの

看護師が学校で医療的ケアを実施できるよう、体制を整えているところである。
質問 乳がん検診にエコーやMRI、子宮頸がん検診にHPV自己採取検査を導入する考えは。また、骨量



本市の地場農産物



学校給食の地域移行 給食 新倉哲郎 (無所属)

質問 学校給食における地場農産物使用率の目標値を令和5年度に引き下げた根拠は。また使用率の低下により、農業関係者との関わりや児童・生徒の農業体験の機会が減ることを懸念するが、本市の考えは。

答弁 努力目標として使用率を50%と設定していたが、過去3年間にコロナ禍の影響等から使用率が減少しており、使用実績を踏まえ、本年度は目標値を40%に見



「官製ワーキングプア」の是正 伊藤敦博 (日本共産党)

質問 持続的で質の高い自治体運営のためには、増え続けている非正規職員の処遇改善が必要と考えるが、本市の非正規職員の年収の状況は。また、報酬を決定する際の最低賃金に対する考え方は。

答弁 本市の非正規職員の年収は、嘱託職員の場合、勤続1年目の年収が約224万円、勤務成績が良好な場合に1年ごとに昇給する制度となっている。また報酬額を決定する際は、群馬労働局の決定による最低



消防団 後閑賢二 (新風会)

質問 消防団員の欠員の状況は。また、団員を引き受けてもらえない原因は。

答弁 消防団の団員数は、令和5年4月1日現在、条例定数1520人のところ1248人であり、欠員は272人となっている。また欠員の原因としては、少子高齢化による若年層の減少、地域社会への帰属意識の希薄化などがあり、比較的人口の多い市街地においても団員の確保が困難になってきている。

質問 消防団活動に参加しやすくなるよう、人事異動の範囲を当該地域に限定するような対応はできないのか。

答弁 本市の職員が消防団活動をはじめとした地域活動に参加することで、市民と行政との協働が推進されることを期待できる。そのため、今後も職員に対して地域活動への積極的な参加を働きかけるとともに、地域活動に参加しやすいといった観点にも配慮しながら適正な人員配置に努めたい。



学校教育の課題 根岸 赴夫 (新風会)

質問 子どもたちの個性や能力を伸ばし、将来的に社会を支える人材を育てるための取り組みは。

答弁 本市の小・中学校では、学級や学年といった集団の中で個性を尊重し、互いに学び合う子どもたちの育成を進めており、教職員は一人一人の良い点や可能性を生かした指導を行うよ

う努めている。また、職場体験学習として行っているやるベンチャー等のキャリア教育を通じて、生涯にわたって学び続ける意欲や社会人としての基礎的資質、能力の育成を図っている。
質問 教育長の立場から、今後の本市の教育についての考えを聞きたい。



万が一に備えた補償を



区長会・町内会活動 中島輝男 (市民クラブ)

質問 町内会での活動について、本市が保険加入を指導・支援できないのか。

答弁 町内会から保険加入についての相談があった場合には、町内会活動で考えられるリスクへの対応の観点から、町内会で加入できる民間保険会社の自治会活動保険やボランティア活動保険などの情報を伝えている。保険加入については、町内会で実施する事業の規



群馬地域における有形・無形文化財の保存と活用 青木和也 (新風会)

質問 史跡保渡田古墳群の管理状況は。

答弁 本市では、保渡田古墳群を末永く保存・活用するため、令和3年度に策定した史跡保渡田古墳群保存活用計画に基づき管理している。また井出二子山古墳の周囲に広がる堀の部分は、はにわの里・コスモスの会に管理を委託しており、多くのコスモスが来場者を楽しませている。今後も地域と連携しながら、適切なメンテナンスを実施したい。

質問 金古諏訪土俵獅子舞

などの無形民俗文化財は、市内に幾つあるのか。また指定する際の手続きは。
答弁 市内の無形民俗文化財の数は、県指定が1件、市指定が28件である。指定の際には、職員の予備調査の後、専門家による数回の実地調査を経て調査委員に諮問し、指定が可となれば教育委員会が承認し、告示する。なお、調査開始から調査の完成までに数年かかる場合もある。

骨粗しょう症のリスクを確認するため、骨を構成しているカルシウムなどの量(骨量)を測り、骨の強度を調べる検査。本市では両手のエックス線撮影をして測定している。

による交流を図っており、今後も農業関係者と連携して地産地消に取り組みたい。
質問 本市における部活動に関して、企業や既存の地域クラブと連携、協力している例はあるのか。
答弁 部活動の地域移行に関して、現在本市が企業と連携している例はないが、学校や生徒の状況によっては、総合型スポーツクラブ等と連携、協力しながら活動している部活動もある。

子宮頸がんの原因となるHPV(ヒトパピローマウイルス)への感染の有無を、自宅検体採取するキットを用いて検査する方法。婦人科を受診することに抵抗がある人や、時間の都合がつかないなどの理由で子宮頸がん検診を受けられない人も検査することができ、一部の自治体で導入されている。